

登録コード:MH415300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	身体障害作業治療学特論【20M以降】 Advanced occupational therapy for physical disability			
担当教員	佐賀里 昭 佐藤 正彬			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 3 年 後期 火曜・1 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。		身体系作業療法の実践的な治療計画と治療展開を幅広く理解できる。様々な対象疾患に関わる治療実践をより深く理解する。臨床実践で展開される身体障害系作業療法について、具体的な症例や資料・研究成果を参考に治療計画の策定や実践について理解できる。具体的な行動目標は下記の3点である。様々な対象疾患についての治療実践の現状を説明できる。生活支援に関わる身体系作業療法の具体的な実践を説明できる。生活支援のため最善の作業療法治療計画が策定・提案できる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		身体系作業療法の実践的な治療計画と治療展開を幅広く理解し、必要な専門的な知識および技能を修得し、作業療法評価・治療・指導において活用できる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		医療福祉や地域社会で、作業療法士に必要な科学的かつ創造的に課題に対応していく探究心と、目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
	地域運営、環境共生、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	中枢性疾患，がん疾患，呼吸・循環器疾患の評価・治療構造の基礎を踏まえ，生活支援に向けて関連する様々な疾患や障害の具体的な治療概念を深く理解し，応用的な身体障害系の治療学と実践を学ぶ。医療・福祉・在宅での自立的な生活や社会参加を可能にする身体障害系作業療法の医学的治療構造を考察し，その根拠と有用性について検証できる能力を養う。 本授業は，1年次に学んだ「系統解剖学」，「運動学」，「生理学」，2年次に学んだ「身体障害作業治療学」，3年次に学んだ「身体障害作業治療学」の知識が前提となります。本授業の内容は，4年次の臨床実習における重要な知識となります。 本授業は，担当教員の医療現場における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。なお，本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第1回（9月29日）がんリハビリテーション 第2回（10月6日）がんリハビリテーション 第3回（10月13日）がんリハビリテーション 第4回（10月20日）自動車運転と作業療法 第5回（10月27日）運動学習と作業療法 第6回（11月10日）運動学習と作業療法 第7回（11月17日）中間試験 第8回（11月24日）呼吸・循環器疾患の作業療法 第9回（12月1日）呼吸・循環器疾患の作業療法 第10回（12月8日）呼吸・循環器疾患の作業療法 第11回（12月15日）認知機能維持向上を目的とした作業療法 第12回（12月22日）パーキンソン病の作業療法/目標設定ツール 第13回（1月5日）生活行為向上マネジメント演習 第14回（1月12日）生活行為向上マネジメント演習 第15回（1月19日）生活行為向上マネジメント演習，授業アンケート 第16回（1月26日）期末試験			
授業の進め方	授業は，配布資料に基づいて進めていきますが，能動学習による理解の深化を目指すために，質疑応答にも重きを置いて展開します。また演習では作業療法に関連する既習の内容を含めて知識を体系的に整理する課題を実施し，その成果を報告していただきます。			
テキスト，教材，参考書	テキスト，教材 なし 資料は授業で配布します。 参考書 がんのリハビリテーション診療ガイドライン 第2版（日本リハビリテーション医学会）			
成績評価の方法	中間試験と期末試験と演習課題の成果に基づいて，総括的に成績を評価します。総括評価の配分は，中間試験40％，期末試験50％，演習課題10％とします。演習課題は，1月5日，1月12日，1月19日の演習で評価を行います。 「様々な対象疾患についての治療実践の現状の理解」，「生活支援に関わる身体系作業療			

成績評価の方法	法の具体的な実践の理解」，「生活支援のための最善の作業療法治療計画が策定・提案が可能か」については，演習課題と中間試験と期末試験にて確認します．
成績評価の基準	中間・期末試験と演習課題による総合的な成績評価の判定基準は，下記の通りとします． 90 - 100点：秀 80 - 89点：優 70 - 79点：良 60 - 69点：可 なお，これらの採点の基準は，達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく，記述式解答における用語の適切さ，説明内容の範囲の広さや詳細さ，説明内容の論理的な妥当性などを指標とし，授業で説明した範囲における，最低限の解答内容であれば「水準にある」，やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」，十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」，授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します．
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業終了時に，次回までに学習しておく資料や教科書の範囲を説明します．例えば，第1回では「がんのリハビリテーション診療ガイドライン 第2版」を通読し，がんリハにおける作業療法士の役割を整理しておいてください． 【事後学習について】 毎回，授業のはじめに，前回の授業の要点について質問を行いますので，授業で配布した資料や授業で実施した教科書の範囲を十分に復習してください． 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします． 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して，事前・事後学習に意欲的に取り組んでください．
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本科目は作業療法に関連する既習内容を基盤としています．受講の際には，身体障害作業治療学等の講義内容と併せて学習を進めてください． 質問への対応：佐賀里 昭 sagaria@shinshu-u.ac.jp 佐藤 正彬 msato1413@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 佐賀里研究室，佐藤研究室